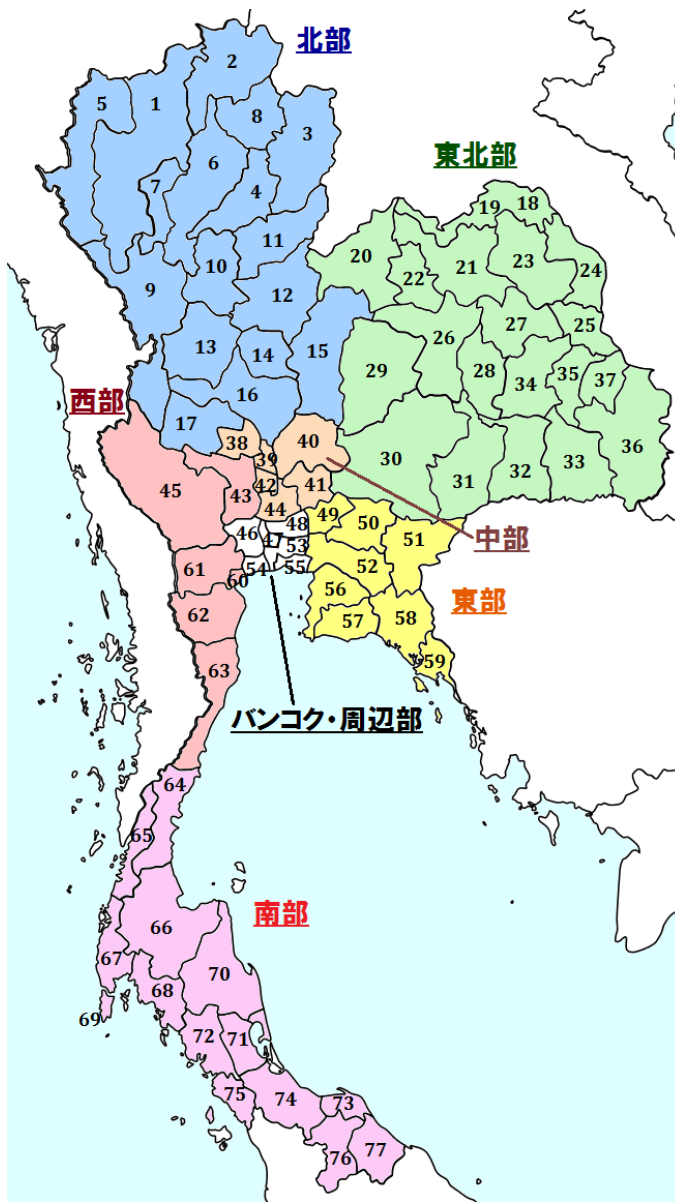


## 第24章 地域別の概要

### 1. タイの地域分類

タイの地域区分には何通りかの分け方がある。人々の感覚では、タイ全土を北部、東北部、中央部、南部の4つの地域に分ける場合もあるが、一般的には中央部をさらに東部、中部、西部、バンコク首都圏に分類し、統計もこれら7地域のカテゴリに基づき発表されている（図表 24-1）。

図表 24-1 タイの県名と所在地



北部地方		
1	チェンマイ	Chiang Mai
2	チェンラーイ	Chiang Rai
3	ナーン	Nan
4	プレー	Phrae
5	メーホンソーン	Mae Hong Son
6	ランパーン	Lampang
7	ランブーン	Lamphun
8	パヤオ	Phayao
9	ターク	Tak
10	スコータイ	Sukhothai
11	ウッタラディット	Uttaradit
12	ピサヌローク	Phitsanulok
13	カンペンベット	Kam Phaeng Phet
14	ピチット	Phichit
15	ベッチャブーン	Phetchabun
16	ナコンサワン	Nakhon Sawan
17	ウタイターニー	Uthai Thani
東北部地方		
18	ブンカーン	Bueng Kan
19	ノンカイ	Nong Khai
20	ルーイ	Loei
21	ウドンターニー	Udon Thani
22	ノンブアランブー	Nong Bua Lam Phu
23	サコンナコン	Sakon Nakhon
24	ナコンパノム	Nakhon Phanom
25	ムクダーハーン	Mukdahan
26	コーンケン	Khon Kaen
27	カーラシン	Kalasin
28	マハーサーラカム	Maha Sarakham
29	チャイヤブーム	Chaiyaphum
30	ナコンラーチャシーマー	Nakhon Ratchasima
31	ブリラム	Buri Ram
32	スリン	Surin
33	シーサケート	Si Sa Ket
34	ローイエット	Roi Et
35	ヤソートン	Yasothon
36	ウボンラーチャターニー	Ubon Ratchathani
37	アムナートチャレーン	Am Nat Chareon
中部地方		
38	チャイナート	Chai Nat
39	シンブリー	Singburi
40	ロップリー	Lop Buri
41	サラブリー	Saraburi
42	アーントーン	Ang Tong
44	プラナコンシーアユタヤ	Phra Nakhon Sri Ayuthaya

バンコク首都圏		
46	ナコンパトム	Nakhon Pathom
47	ノンタブリー	Nonthaburi
48	パトゥムターニー	Pathum Thani
53	バンコク	Bangkok
54	サムットサーコン	Samut Sakhon
55	サムットプラカーン	Samut Prakan
東部地方		
49	ナコンナーヨック	Nakhon Nayok
50	ブラーチンブリー	Prachin Buri
51	サケーウ	Sa Kaeo
52	チャチュンサオ	Chachoengsao
56	チョンブリー	Chon Buri
57	ラヨーン	Rayong
58	チャンタブリー	Chanthaburi
59	トラート	Trat
西部地方		
43	スパンブリー	Suphan Buri
45	カンチャナブリー	Kanchanaburi

60	サムットソクラーム	Samut Songkhram
61	ラーチャブリー	Ratchaburi
62	ペッチャブリー	Phetchaburi
63	ブラチュワプキーリーカン	Phachuap Khiri Khan
南部地方		
64	チュムボーン	Chumphon
65	ラノーン	Ranong
66	スラートターニー	Surat Thani
67	パンガー	Phangnga
68	クラビー	Krabi
69	プーケット	Phuket
70	ナコンシータマラート	Nakhon Si Thammarat
71	パッタラン	Phatthalung
72	トラン	Trang
73	パッタニー	Pattani
74	ソクラー	Songkhla
75	サトゥーン	Satun
76	ヤラー	Yala
77	ナラティワート	Narathiwat

(出所) アジア経済研究所「アジア経済動向年報」を基に作成

図表 24-2 地域ごとの面積、人口、名目 GDP (2020 年)

	面積		人口		名目GDP		一人当たりGDP (パーツ)
	(km <sup>2</sup> )	(構成比)	(1,000人)	(構成比)	(10億パーツ)	(構成比)	
全国	513,120	(100.0%)	69,509	(100.0%)	15,637	(100.0%)	224,962
バンコク首都圏	7,762	(1.5%)	17,095	(24.6%)	7,442	(47.6%)	435,356
中部	16,593	(3.2%)	3,175	(4.6%)	843	(5.4%)	265,659
東部	36,503	(7.1%)	6,160	(8.9%)	2,687	(17.2%)	436,237
西部	43,047	(8.4%)	3,663	(5.3%)	563	(3.6%)	153,805
北部	169,644	(33.1%)	11,324	(16.3%)	1,228	(7.9%)	108,469
東北部	168,855	(32.9%)	18,449	(26.5%)	1,591	(10.2%)	86,232
南部	70,715	(13.8%)	9,643	(13.9%)	1,281	(8.2%)	132,863

(出所) National Economic and Social Development Board より作成

タイの国土面積は約 51.3 万 km<sup>2</sup> (日本の約 1.4 倍)。バンコク首都圏は面積では国土の 1.5%の広さしかないが、人口ではタイ全体の 24.6%、経済規模(名目 GDP)では同 47.6%を占めている。また、一人あたり GDP でみるとバンコク首都圏とともに、東部も経済規模が大きいことが分かる(図表 24-2)。大手製造企業の本社機能や金融機関が多く所在するバンコク首都圏や、製造企業の生産拠点多い東部の 2 地域で、タイの名目 GDP の 64.8%を占めている。

一方、面積の約 3 割ずつを占める東北部や北部は、経済規模では各々 1 割弱に留まっている。西部や南部も同様に、経済規模の比率は相対的に低くなっている。

## 2. 県別の 1 人あたり GDP

図表 24-3 では、国家経済社会開発委員会 (National Economic and Social Development Board) の統計に基づいた県別の 1 人あたり GDP (2020 年) を階層別に表している。

これによると、1人あたりGDPが相対的に高い地域は、バンコク首都圏、工業団地の多い東部、観光業が盛んなプーケット等の南部の一部地域となっている。他方、相対的に低い地域は、ラオスやカンボジアの国境に近い東北部、観光都市チェンマイや電子部品等の製造業が工業団地に進出しているランブーンを除いた北部となっている。

図表 24-3 県別1人あたりGDP (2020年)

地域	県名	一人あたりGDP (Baht)	地域	県名	一人あたりGDP (Baht)
北部地方	チェンマイ	131,967	中部地方	チャイナート	123,905
	チェンラーイ	88,281		シンブリー	140,890
	ナーン	78,147		ロブリー	137,004
	プレー	82,657		サラブリー	321,625
	メーホーンソーン	63,419		アーントーン	127,940
	ランパーン	100,591		プラナコンシーアユタヤ	436,363
	ランブーン	209,668	バンコク首都圏	ナコンパトム	288,232
	パヤオ	95,197		ノンタブリー	193,682
	ターク	118,508		パトゥムターニー	239,753
	スコタイ	80,206		バンコク	585,689
	ウッタラディット	99,236		サムットサーコン	382,372
	ピサヌローク	107,854	サムットプラカーン	285,173	
	カンベンペット	134,926	東部地方	ナコンナーヨック	119,304
	ピチット	97,221		ブラーチンブリー	510,887
	ベッチャブーン	86,198		サケーウ	71,924
	ナコンサワン	121,070		チャチュンサオ	403,574
ウタイターニー	91,578	チョンブリー		471,723	
ブンカーン	68,497	ラヨーン		831,734	
東北方	ノーンカーイ	92,947	チャンタブリー	254,246	
	ルーイ	95,989	トラート	166,451	
	ウドンターニー	85,982	西部地方	スパンブリー	105,238
	ノーンブアランプー	59,157		カーンチャナブリー	123,679
	サコンナコン	69,009		サムットソクラーム	150,169
	ナコンパノム	82,712		ラーチャブリー	222,261
	ムクダーハーン	61,345	ベッチャブリー	143,591	
	コーンケン	121,648	ブラチュワブキーリーカン	187,718	
	カーラシン	73,404	南部地方	チュムポーン	250,823
	マハーサーラカム	80,422		ラノーン	110,240
	チャイヤブーム	69,375		スラートターニー	155,156
	ナコンラーチャシーマー	117,521		パンガー	219,867
	ブリラム	76,038		クラビー	163,070
	スリン	79,182		プーケット	226,158
	シーサケート	80,747		ナコンシータマラート	117,801
	ローイエット	76,334		パッターン	77,516
	ヤソートン	65,254		トラン	105,449
	ウボンラーチャターニー	74,408		パッタニー	75,779
アムナートチャルーン	72,573	ソクラー		140,562	
		サトウーン		111,682	
		ヤラー	102,821		
		ナラティワート	55,417		

(出所) National Economic and Social Development Board より作成

### 3. 地域別の経済動向

#### (1) 地域別 GDP 構成比

2020 年の名目 GDP を基にすると、地域ごとの内訳はバンコク首都圏が 47.6%と最も大きく、その他の地域は、中部が 5.4%、東部が 17.2%、西部が 3.6%、北部が 7.9%、東北部が 10.2%、南部が 8.2%となっている（図表 24-4）。2000 年以降の推移は、バンコク首都圏の構成比は 01 年の 51.4%をピークに低下し、洪水の影響のあった 11 年から 12 年は 43.5%にまで低下したが、その後は再び上昇し、47.6%まで上昇している。なお、構成比の 2017 年との比較では、東部が 18.5%から 17.2%に低下しているのと中部は同じ比率であることを除くと、他 3 地域は 1%未満での上昇となっており、わずかに上昇している。

バンコク首都圏の重要性が近年益々高まっている中で、タイ全国の名目 GDP に占める比率を地域と産業のマトリックスでも、製造業や第 3 次産業を中心に、バンコク首都圏の各産業の規模が大きいことが窺える。その他の地域で比率が高いのが「第 1 次産業」での東部、北部、東北部、南部、「鉱業」での東部、「製造業」の中部、東部、東北部、「卸売・小売業」の東部、東北部、「教育・科学技術」の東北部である。

図表 24-4 地域別にみた名目 GDP の産業別構成比（全国=100%）

	全国	バンコク 首都圏	中部	東部	西部	北部	東北	南部
全体	100.0%	47.6%	5.4%	17.2%	3.6%	7.9%	10.2%	8.2%
第 1 次産業	8.7%	0.3%	0.3%	1.2%	0.8%	1.9%	2.0%	2.1%
農林水産業	8.7%	0.3%	0.3%	1.2%	0.8%	1.9%	2.0%	2.1%
第 2 次産業	33.2%	11.7%	3.2%	11.0%	1.2%	1.9%	2.5%	1.7%
鉱業	2.1%	0.0%	0.1%	1.3%	0.1%	0.2%	0.1%	0.3%
製造業	25.5%	9.9%	2.6%	8.6%	0.7%	1.1%	1.7%	0.9%
公益業	3.0%	0.8%	0.4%	0.9%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%
建設業	2.7%	1.1%	0.1%	0.3%	0.1%	0.4%	0.4%	0.3%
第 3 次産業	58.1%	35.6%	1.8%	4.9%	1.6%	4.0%	5.7%	4.4%
卸売・小売	17.0%	10.3%	0.6%	2.0%	0.5%	1.1%	1.5%	1.0%
ホテル・レストラン	3.8%	2.6%	0.0%	0.3%	0.1%	0.2%	0.1%	0.5%
運輸・倉庫	4.8%	2.8%	0.2%	0.7%	0.1%	0.2%	0.3%	0.5%
情報・通信	2.8%	2.3%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%
金融	8.2%	5.6%	0.2%	0.4%	0.2%	0.6%	0.8%	0.5%
不動産	2.7%	1.2%	0.1%	0.3%	0.1%	0.3%	0.5%	0.3%
公共・防衛	7.9%	5.2%	0.3%	0.6%	0.2%	0.5%	0.6%	0.6%
教育・科学技術	6.2%	2.8%	0.2%	0.3%	0.2%	0.7%	1.3%	0.6%
その他	4.6%	2.7%	0.1%	0.3%	0.1%	0.4%	0.5%	0.3%

（注） タイ全国の GDP に占める比率が 1.2%を上回っている産業・地域を黄色、0.2%を下回っている産業・地域は青色でシャドーしている。

（出所） National Economic and Social Development Board より作成

## (2) 地域別の産業構造の特徴

### ① バンコク首都圏（2020 年名目 GDP 構成比：47.6%）

バンコク首都圏は、タイの GDP の約半分が集中している。産業別では、他地域に比べて第 3 次産業の比率が高い（74.8%）。人口が多いため、第 3 次産業では特に「卸売・小売」、「金融」、「公共・防衛」産業が経済を牽引している。

### ② 中部（同：5.4%）

中部の特徴は、製造業を中心とした第 2 次産業の比率が 60.1%と、全国平均（33.2%）を大幅に上回っていることにある。製造業の中でも構成比が高まっている自動車産業（主に自動車部品メーカー）や家電メーカーが集積している影響が表れている。

### ③ 東部（同：17.2%）

東部は、中部以上に第 2 次産業の構成比が高い（64.2%）。製造業の中でも構成比が高まっている自動車産業（主に完成車メーカー）や化学産業が集積している影響が表れている。

### ④ 西部（同：3.6%）

西部の特徴は、バンコク首都圏に比較的近いにもかかわらず、第 1 次産業の構成比が 21.3%と全国平均（8.7%）を大きく上回っていることにある。また、第 2 次産業の構成比が 33.9%となっており、この内の 8.7%を公益業が下支えしている状況にあり、製造業（19.2%）の育成は比較的遅れている。

### ⑤ 北部（同：7.9%）

北部の特徴は、第 1 次産業の構成比が 24.5%と全国平均（8.7%）を大幅に上回っていることにある。ランブーン県を中心に小型高付加価値の電子部品産業が多く進出しているが、アクセス（陸運、空運）が他地域に比べて劣ることもあり、北部は第 1 次産業（主に農林業）が中心である。

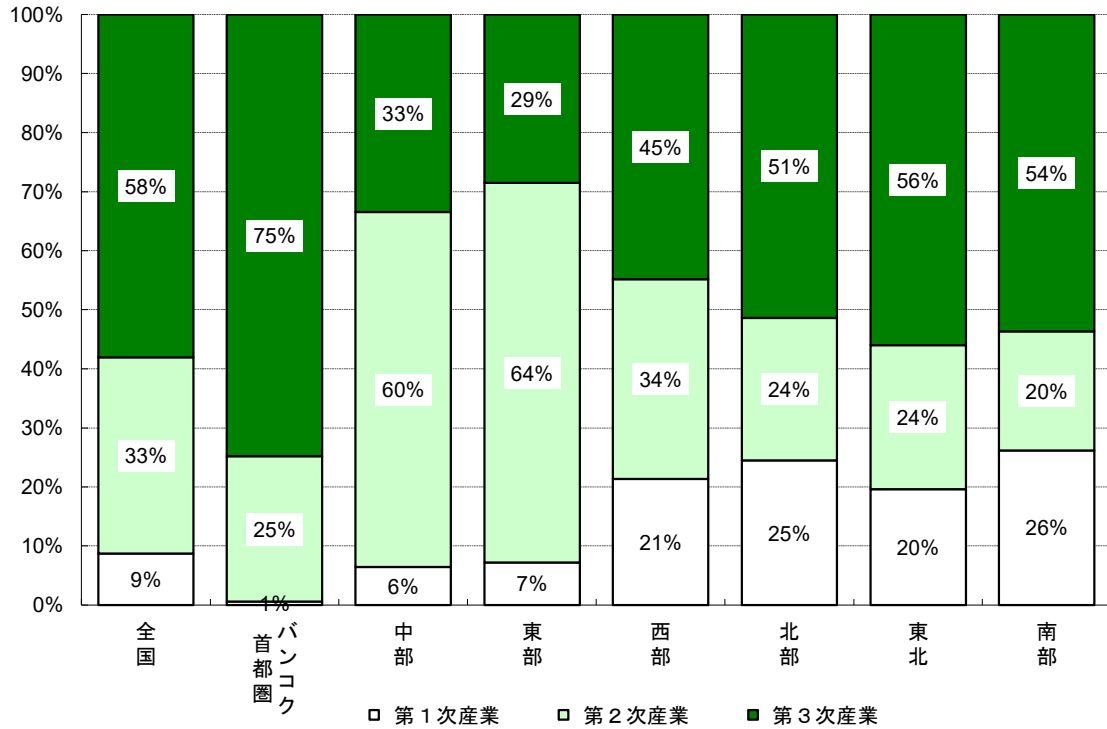
### ⑥ 東北部（同：10.2%）

東北部の産業構成は北部と同様に第 1 次産業（19.6%）の比率が高い。また、第 3 次産業の「教育・科学技術」の比率が相対的に高いことも特徴的である。

### ⑦ 南部（同：8.2%）

南部は農林業に加え漁業も盛んであり第 1 次産業の構成比が 26%と最も高く、観光都市も多いため「ホテル・レストラン」（6.5%）の構成比が全国平均（3.8%）を上回っている。

図表 24-5 地域別にみた名目 GDP の産業別構成比（各地域を 100%とした場合）



	全国	バンコク首都圏	中部	東部	西部	北部	東北	南部
全体	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
第 1 次産業	8.7%	0.6%	6.5%	7.2%	21.3%	24.5%	19.6%	26.2%
農林水産業	8.7%	0.6%	6.5%	7.2%	21.3%	24.5%	19.6%	26.2%
第 2 次産業	33.2%	24.6%	60.1%	64.2%	33.9%	24.1%	24.4%	20.2%
鉱業	2.1%	0.0%	2.3%	7.5%	1.8%	2.8%	0.9%	3.3%
製造業	25.5%	20.7%	48.6%	50.0%	19.2%	14.5%	16.9%	10.6%
公益業	3.0%	1.6%	7.1%	5.1%	8.7%	2.3%	2.4%	2.5%
建設業	2.7%	2.2%	2.1%	1.7%	4.2%	4.5%	4.2%	3.8%
第 3 次産業	58.1%	74.8%	33.4%	28.5%	44.8%	51.4%	56.0%	53.7%
卸売・小売	17.0%	21.6%	11.9%	11.7%	12.7%	13.9%	14.3%	12.5%
ホテル・レストラン	3.8%	5.5%	0.6%	1.7%	2.9%	1.9%	1.2%	6.5%
運輸・倉庫	4.8%	6.0%	3.8%	3.9%	4.0%	2.4%	2.5%	5.9%
情報・通信	2.8%	4.9%	0.6%	0.5%	0.9%	1.2%	0.9%	1.1%
金融	8.2%	11.7%	3.2%	2.5%	5.0%	7.2%	8.2%	5.9%
不動産	2.7%	2.5%	2.0%	1.5%	3.5%	4.1%	4.5%	3.5%
公共・防衛	7.9%	10.9%	5.0%	3.4%	6.4%	6.4%	5.9%	6.7%
教育・科学技術	6.2%	6.0%	3.9%	1.7%	5.5%	8.8%	13.2%	7.2%
その他	4.6%	5.7%	2.6%	1.7%	3.9%	5.5%	5.4%	4.2%

(注) 構成比が「全国」を 2%ポイント上回っている産業・地域を黄色、2%ポイント下回っている産業・地域を青色でシャドーしている。

(出所) National Economic and Social Development Board より作成

#### 4. 賃金水準

2012 年末以前のタイでは、県ごとに最低賃金が異なっていた。76 県のデータが揃った 94 年 4 月時点では最高水準の県は最低水準の県の 1.22 倍だったが、両者の格差は徐々に拡大し、12 年末時点には 1.35 倍となっていた。2013 年 1 月より日額の最低賃金は一律 300 バーツ（約 1,000 円）となったものの、17 年 1 月より再び地域の格差が生じている。その後段階的に改定され、2022 年 10 月 1 日から最低賃金が、日額 328～354 バーツとなる。

金額に関しては、県を 9 つのグループに分け、グループごとに異なる最低賃金が適用される。最高額（354 バーツ）は、チョンブリー、プーケット、ラヨンに適用され、最低額（328 バーツ）は、南部 3 県（ヤラー、パッタニー、ナラーティワート）、北部ナン及び東北部ウドンターニーに適用される（図表 24-6）。

図表 24-6 県別にみた最低賃金（2022 年 10 月）

番号	最低賃金 (バーツ)	県
1	354	チョンブリー、プーケット、ラヨン
2	353	バンコク、ナコーンパトム、ノンタブリー、パトゥムターニー、サムットプラカーン、サムットサーコーン
3	345	チャチェンサオ
4	343	アユタヤ
5	340	クラビー、コーンケン、チェンマイ、トラート、ナコーンラーチャシーマー、プラチンブリー、パンガー、ロッブリー、ソンクラ、サラブリー、スパンブリー、スラートターニー、ノンカーイ、ウボンラーチャターニー
6	338	カーラシン、チャンタブリー、ナコーンナヨック、ムックダーハーン、サコンナコーン、サムットソンクラーム
7	335	カーンチャナブリー、チャイナート、ナコーンパノム、ナコーンサワン、ブンカーン、ブリーラム、プラチュワップキーリーカン、パヤオ、パッタルン、ペッチャブリー、ピッサヌローク、ペッチャブーン、ヤソートーン、ローイエット、ルーイ、サケオ、スリン、アーントーン、ウッタラディット
8	332	カムペンペット、チャイヤブーム、チュムポーン、チェンライ、トラン、ターク、ナコーンシータンマラート、ピット、プレー、マハーサーラカム、メーホンソーン、ラノーン、ラーチャブリー、ラムパーン、ラムプーン、シーサケート、サトウーン、シンブリー、スコータイ、ノンブワラムプー、アムナートチャルーン、ウタイターニー
9	328	ナラーティワート、ナン、パッタニー、ヤラー、ウドンターニー

（出所）JETRO 資料より作成

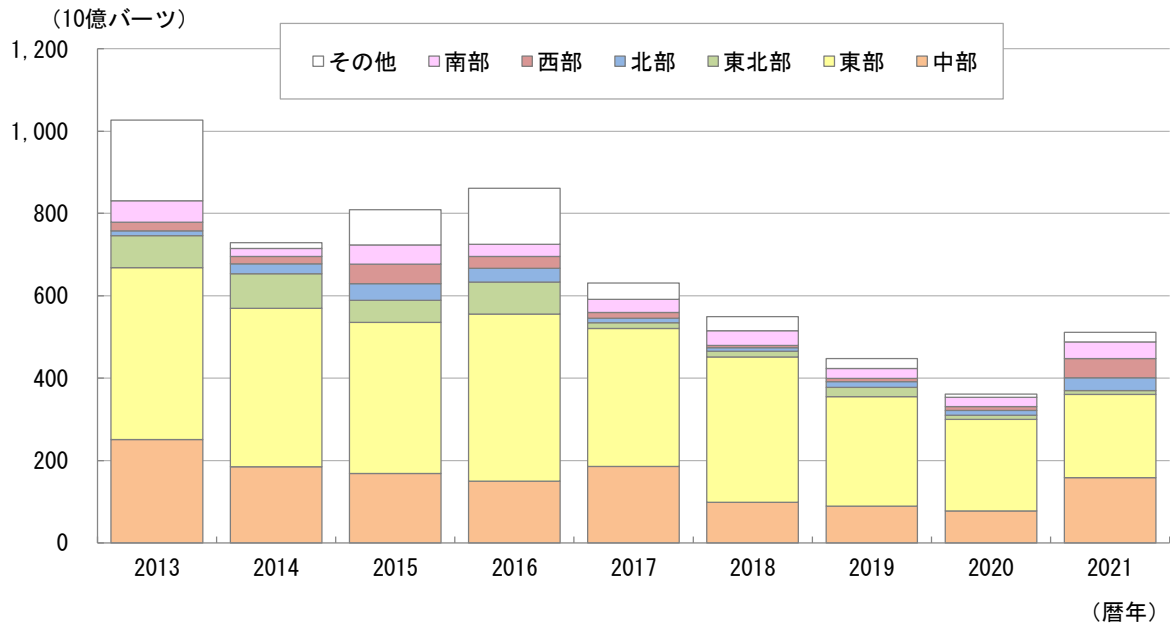
#### 5. 近年の地域別投資動向

BOI で認可された投資案件（Application Approved）の投資額を地域別にみると、バンコク首都圏を含んだ中部と多くの工業団地がある東部に集中している。2013 年から 21 年までの 9 年間の累計では、中部は約 1 兆 3,654 億バーツと全体の 23.0%を、東部は約 2 兆 9,507 億バーツと同 49.8%を占めている。2017 年以降はタイ全体の FDI 認可額が減少傾向にあり、特に 2020 年は新型コロナウイルスの影響を受け大きく落ち込んでいる。直近 2021 年は 5,000 億バーツを超える水準まで増加、2022 年（1 月～9 月）の速報値でも 5,000 億バーツを超えており、コロナ前の水準まで回復をみせている。



また、中部と東部以外の地域の2013年から21年までの9年間の累計は、東北部の比率は6.1%、南部が5.1%、西部が3.4%、北部が3.1%といずれも全体の1割にも満たない水準である。

図表 24-7 地域別にみたBOI投資申請額（認可ベース）



（出所）BOI 資料より作成

## 6. 外資企業の関心が高い工業団地

タイには現在、約80の工業団地が存在し、この内の55カ所はタイ工業団地公社（IEAT）によって開発・管理されている（民間との合弁での運用管理を含む）。これらの工業団地は主に中部から東部にかけての地域に多く立地している。中でも東部のラヨン、チョンブリー、チャチュンサオ、中部のアユタヤに多くの工業団地が立地している。

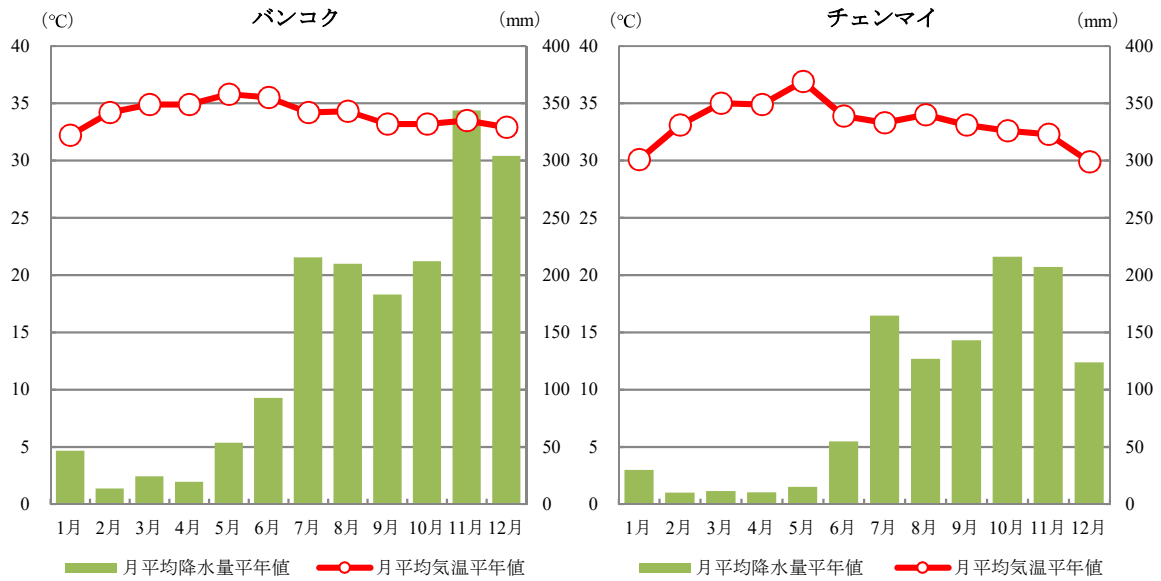
工業団地の中で日系企業が多いのは、アマタシティ・チョンブリー工業団地、イースタン・シーボード工業団地、バンブー工業団地が挙げられる。日系企業の多くは中部から東部に進出しているが、北部ランプーンの北部工業団地や東北部のナコンラーチャシーマーのスラナリ工業団地にも日系企業が多い。



【参考】地域別気候

タイは熱帯性モンスーン気候で、非常に暑く雨が多いが、南北の地域ではやや違いがある。北部のチェンマイは山岳地帯ということもあり、バンコクに比べると 12 月、1 月は気温がやや低めで、過ごしやすくなっている。

図表 24-8 地域別の気温と降水量（平年値）



(出所) 気象庁「世界の天候データツール」より作成